

まつほ うら
松帆の浦

所在地：淡路市 岩屋



「夜明けの海峡」淡路市 木村卓司氏撮影
(第1回淡路島景観フォトコンテスト応募作品)



恵比寿神社



松帆の浦の石碑



淡路國名所図絵「松帆浦」

松帆の浦は、淡路島最北部に位置し、古くから明石海峡を渡るための拠点でした。明石海峡が荒れたときに、風待ち、潮待ちしたのが、松帆（待つ帆）という名の由来であるといわれています。

松帆の浦は、藤原定家が「来ぬ人を 松帆の浦の 夕凧に 焼くや藻汐の 身もこがれつつ」と詠んだ歌をはじめ、多くの歌に詠まれた場所でもあります。

平成10年(1998)に明石海峡大橋が開通し、淡路名所図絵にみることができる松林も無く、松帆の浦の景観も大きく変わってしまいました。しかしながら、松帆の浦の恵比寿神社鳥居から望む朝日、海岸の玉石に明石海峡の波が打ち寄せる様から、当時をしのぶことができます。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - ✓ 歴史がつくりだす景観
 - 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道淡路ICから、県道31号線を北上、車で10分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図